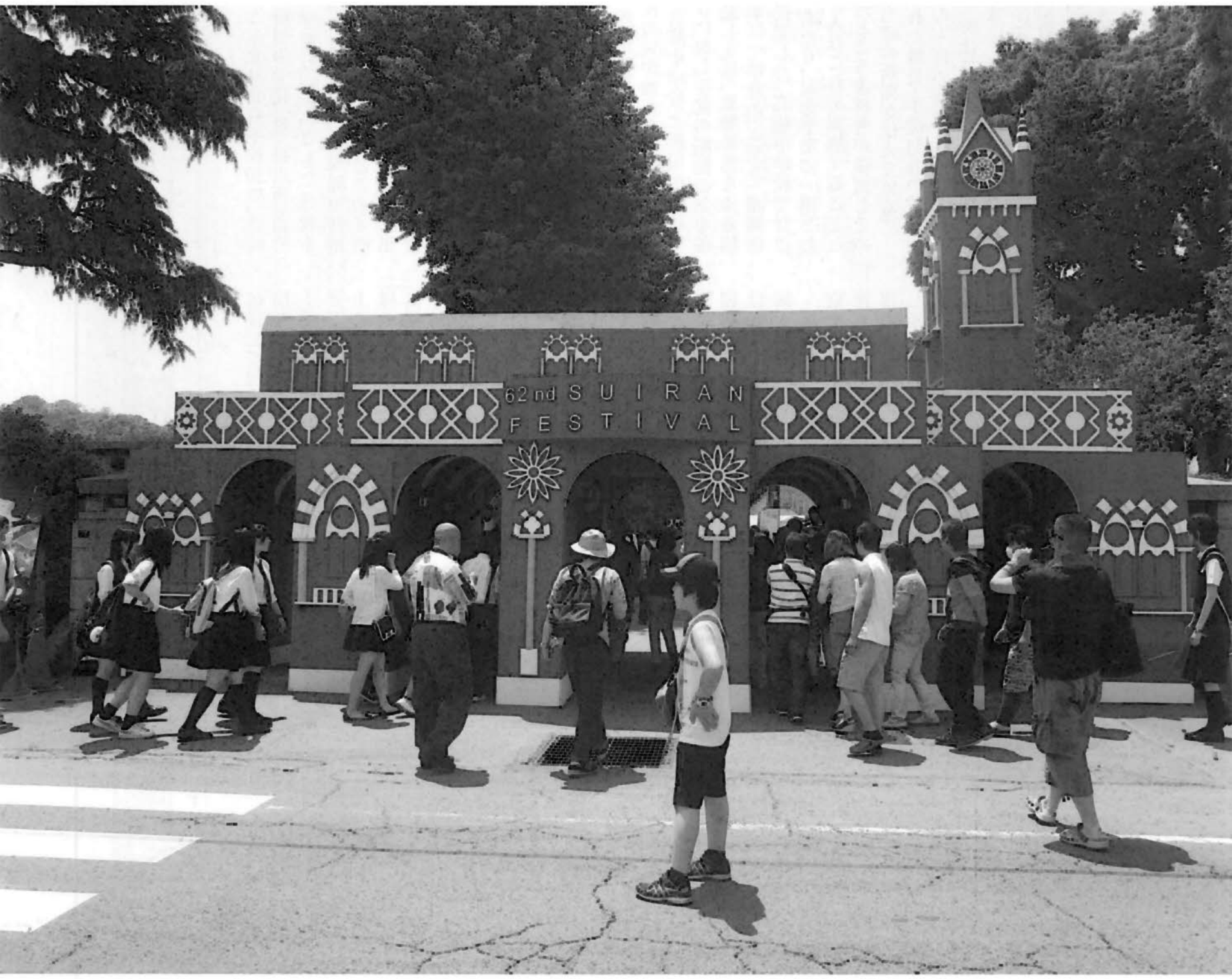
高崎高校同窓会報 2014 No.48

発行所／高崎高校同窓会　〒370-0861　高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024　　平成26年11月30日

史上最多更新！16,000人超の翠巒祭



第62回翠巒祭のアーチ

風雨雷電、険山難所を断固突破／高崎から甲府まで踏破

剛健旅行

高中剛健旅行団出発の光景

大正6（1917）年8月10日午前10時、高崎中学校と静岡県立掛川中学校（現・掛川西高校）の職員・生徒の修学旅行団が、ともに母校をたって6日目に堂々と目的地の山梨県立甲府中学校に到着した。そのとき校門にはこのイベントの提唱者・福島安正大将（※1）が直々に出迎え、その後査閲、訓示、最後に所感の漢詩を披露され、旅行団一同は病気をこらえての大将の好意に接し感涙にむせんだ。

この頃「大戦景気」で成金が生まれ一部では浪費、贅沢が横行、また欧米風俗が流入し人々の生活も明治期と大きく変わろうとしていた。この世相を軽佻浮薄、頽廃と憂えた福島大将は、青年に質実剛健の気を培うべく、全国の中等学校をまわって剛健主義を鼓吹していた。その折、もっとも剛健の気が盛んな学校として目にとまったのが、高崎中学校と掛川中学校であった。そこで両校に対し生徒の剛健の気を養うため、両校を出発し天候、地勢等あらゆる困難を克服して、徒歩にて甲府市に至る「剛健修学旅行」の実施を提案した。高崎中学校ではこの年創立20周年にあたり、記念事業の一環としてこの提案に受け入れこれを実施することとし、参加者を募ったところ希望者が殺到しその対応に苦慮したと当時の新聞が伝えている。

こうして結成された職員・生徒54名の旅行団に対して、大将から一日の踏破距離5～6里（20～24㎞）、宿泊所は沿線小学校の作法室（※2）、服装は軽装にして雨具は茣蓙（ござ）、いかなる天変地異に遭遇しても断固として予定の行程を進むこと等12項目の指示があり、旅行団は8月5日出発しこの指示を守って断固歩き続けた。このイベントは国民新聞（※3）が後援して記事にしたため、沿道の村々では青年団などが接待所を設けて応援し、また地元でも上毛新聞が旅行団からの通信を「旅行団より」として連載してもり立てた。さらに陸軍も軍事上の参考に供する価値あるものとして高崎連隊の松本中尉（同窓生）を参加させるなど、一気に注目されるイベントになった。高崎中学校の行程中最大の難関は雁坂峠越えで、これを踏破して8月10日菅笠、茣蓙の姿で甲府中学校に到着した。掛川中学校も同様な姿であったが、同校の場合増水により大井川が徒渉できないため金谷・島田間を汽車を利用しなくてはならず残念がった。セレモニー後、午後には大将の「シベリア単騎横断」についての講演が2時間にわたって行われ、その壮挙に感動し疲れを忘れて傾聴した。

その後高中団は河口湖を経て吉田から富士山に登り、須走から国府津へ出、汽車で東京を経由し8月14日高崎へ帰った。この途次東京では後援してくれた国民新聞社を表敬訪問し、後援を謝した。

雁坂峠を越え、富士山に登り、汽車に乗り、東京を闊歩するという当時の生徒にとっては想像もできない冒険を経験し、しかもそれを成功裏に成し遂げ、気宇壮大にして剛健の気を培うのに十分な大イベントであった。

高崎　掛川両校の行程

※1 当時予備役陸軍大将。ドイツ公使館付武官退任後の帰国にあたり1892～3年ポーランドからロシア、モンゴル、シベリアを経て日本海までの約12000㎞を、1年4ヶ月かけて馬で横断（シベリア単騎横断）し実地調査を行い、情報軍人の嚆矢として活躍。陸軍の情報活動の礎を築いた。

※2 畳敷きの床の間、違い棚等がついた大広間で、女子の教養としての茶道、花道、行儀作法を教えた教室。どこの学校にもあった。

※3 明治23（1890）年徳富蘇峰により創刊された。その後新愛知新聞（現・中日新聞）に引き継がれ、昭和17（1942）年都新聞と合併し東京新聞となり都新聞側が経営主体となるも、経営不振に陥り東京新聞の紙名を残したながら再び中日新聞の傘下に入り現在に至る。

高崎駅へ帰着した剛健旅行団

ご挨拶

高崎高等学校同窓会長（57期）

佐藤　和徳

同窓諸兄におかれましては、益々御清栄のことと、お慶び申し上げます。高崎西方の乗附ケ原で過ごした3年間は、誰にとっても貴重な時間でした。

上和田校舎で、高中時代を謳歌した方々にも、お元気でおられることは大変喜ばしいことであります。

江田島の旧海軍兵学校には“青春は意気であり、熱であり、かえりみるときの微笑み”…「一生勉強、一生青春」からと、掲げられているとのことです。

先日、翠巒体育会40周年の集いに参加させていただき、眼にみえないもの、形のないものは決して滅びない、いやむしろ時を経て増大する宝物であると実感いたしました。

教育、人づくりは、教職員と生徒の師弟関係以外のつながりを重視せよという、下村文科相の話も何となく解るような気がいたします。

地域のつながりもさることながら、PTA、同窓会などの存在意義も奈辺にあるのかと悟る機会でもありました。

低資源国の生きる道を、人材が日本で育ち地方にも残れる道を、模索するには如何にしたらよいのか。

本当の意味での海外進出ではなく、利益優先で人件費の多少安い海外に、安易に会社や工場を移転させるのは如何なものか。

親の収入格差が、そのまま生徒の学力格差につながるのも如何なものか。“少にして学べば、即ち壮にして為すあり、壮に学べば即ち老いても衰えず、老いて学べば即ち死しても朽ちず”羽鳥前校長の最後の卒業式の訓示であります。

本校から、多様多彩な人材の輩出を願ってやまない。　（さとう　かずのり）

医師、第一病院院長
群馬県医師会副会長

高崎高等学校校長

佐藤　功

日頃より、母校高崎高校に絶大なるご支援とご指導を賜り感謝申し上げます。今年度より校長としてお世話になる佐藤でございます。

本校は、授業第一主義を掲げ、一コマ65分の質の高い「力のつく授業」を展開し、生徒一人一人の進路実現を図っています。その上に、「知性を磨くCSSプログラム」「高いレベルの文武両道」「主体的な学校行事」を3つの柱とする「翠巒プロジェクト」を本校の教育体系として推進して参りましたが、今後も充実・発展させて参りたいと思っております。

たとえば、「CSSプログラム」の一つに、2年生で行うCSS論文があります。これは、自分で課題を見つけ論文としてまとめるものですが、生徒の指導はすべての教職員で行うこととしています。管理職も例外ではありません。このCSS論文では、自ら深く考え、まとめ、表現する力や、コミュニケーション能力などを養うことを目指しているのですが、これらの能力は、今の社会で求められている力ではないでしょうか。

これからも国際社会で活躍できる有為な人材を育成して参りたいと考えておりますので、引き続き変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げます。

（さとう　こう）

潮流

一括採用方式の見直しについて

清水　敏
早稲田大学教授・同大学副総長（65期）

最近のマスコミ報道等でご承知の通り、現在高等教育の在り方をめぐって文科省をはじめ政府の各種委員会・審議会等から幾多の改革提言がなされており、財界等の民間団体からも同様な提言が行われている。これらの提言には、大学構成員から見ても傾聴すべき意見が少なからず存在する。大学自身もこれらの提言を踏まえ、遅まきながら主体的に改革に取り組んでいるところである。たとえば、各提言において指摘されている高等教育機関の国際化への対応策は必須の課題であり、早稲田大学でもグローバル人材の育成を中・長期計画における重要課題に位置づけて諸施策を展開している。

ところで、こうした教育改革の論調とはやや趣を異にするが、より効率的な採用システムを構築する観点から、新規学卒者の4月一括採用方式の見直しが最近叫ばれるに至っている。これは、今後の学生の就職活動にも多大な影響を及ぼすおそれのある問題でもあり、大学経営の一端を担う立場にある者として関心をもって議論の成り行きを見守っているところである。そこで、以下では、この問題をめぐって展開されているマスコミ報道について考えているところを記すこととしたい。同窓会報への掲載文としては、必ずしもふさわしいものではないかもしれないが、ご容赦願いたい。

さて、そもそもなぜ4月一括採用の見直しが必要とされているのであろうか。

一つの理由は、現在の一括採用方式のもとにおいては、学生は4月から6月における選考に漏れると当該年度の就職の機会を失うリスクがあり、他方、実際の採用人数が当初計画した人数に達しない企業が毎年4割近くに達するといわれている。それゆえ、学生にとっても、企業にとっても現行採用方式は決して合理的であるとはいえず、通年採用方式に転換すべきであるというものである。そして、すでに採用方式を通年採用に改めることを決定した企業も現れているとの報道もある。

このような企業の採用方式の見直しが、従前の4月一括採用の慣行を堅持しつつも、当該年度において予定した採用人数に達するまで新規採用手続きを継続することを意味するのであれば、学生にとっても大変メリットのある改革であり、賛意を表したい。私の経験でも、ゼミの学生の中には、たとえば金融業界の数社にターゲットを絞り込んで就職活動を行ったものの、いずれの企業からも内々定が得られず、早々と就職活動先がなくなってしまう者がいる。その結果、このような学生は、6月にはいわゆる「就職浪人」を決断しなければならないことになる。通年採用方式への転換は、このような学生にあらためて異業種の企業にチャレンジする機会を与えるのみならず、結果として「就職浪人」を減らす機能を果たすことになるかもしれない。この改革は、大学から見ても望ましい改革と評価できるように思われる。

他方、4月一括採用見直し論の中には上記の趣旨とは些か趣旨を異にするものが見受けられる。この立場の論者からは、概ね、次のような論拠で一括採用システムそのものの見直しが提唱されている。すなわち、日本経済が活性化す

るためには、「起業」を含めてベンチャー労働市場に優秀な人材が供給されなければならないが、現在の一括採用制度はそれを妨げている。それは、財政的基盤の脆弱なベンチャー企業が倒産した場合、労働者が整理解雇された場合、あるいは何らかの理由で自主的に退職した場合、現在の一括採用システムを前提にする限り、これらの労働者が再就職にあたって不利益を被るおそれがあるからである。したがって、たとえ学生がベンチャー企業への就職に魅力を感じたとしても、雇用のリスクが高いためにベンチャー業界への就職をためらう傾向があるというものである。

また、ある論者は、別な論拠から一括採用の見直しを提言している。すなわち、現在のわが国労働市場において二極分化の弊害が存在しているが、その主たる要因の一つが新規学卒者一括採用システムである。すなわち、このシステムの下においては、本格的な就業経験がなく、勤務実績もない新卒者が、将来の成長可能性という曖昧な基準にもとづいて採用されており、就業経験を有する既卒の求職者の採用がそのあおりを受けて困難になっている。新規学卒者として就職できなかった者がやむなく有期雇用または派遣労働の世界に入り込むと、そこから容易に脱出することができず、結果として労働市場が正規労働者と有期雇用労働者という二極に固定化されてしまっている。この二極分化の状態を是正するには新規学卒者の一括採用方式を見直し、通年採用方式に改めるべきだというのである。

たしかに、経済が右肩上がりであった時代に定着したであろう大量一括採用方式は、グローバルな激しい競争を余儀なくされている昨今の状況に適合するシステムであるか否かは検討の余地があるように思われる。また、大学の側から見ても、一括採用方式は学生が海外留学するにあたって抑制的な機能を果たしている面があったことは否定できず、この見直しが学生の海外留学を促進する機能を果たす可能性あるとすれば、その積極的な側面を評価する必要があろう。すなわち、海外の大学との卒業時期のズレは、卒業間近な学生の留学を躊躇させる要因ともなってきたからである。また、現行採用システムの下においては、数社から内々定を得ることのできる学生がいる一方で、まったく内々定を得られない学生もおり、内々定について学生間に大きな較差を生じさせているが、通年採用方式は、この歪みを是正する可能性をもっているようにも見える。したがって、将来の我が国のあるべき採用システムに関する大きな方向性としては、一括採用方式から通年採用方式への転換を否定することはできないであろう。

しかしながら、その実現に向けてのプロセスには慎重さが求められると思われる。一括採用方式を見直して通年採用とすることは、定年退職等によって企業内にポストの空きができるたびごとに、そのポストにふさわしい人材を募集する採用方式への転換を意味することになろう。これは、学生の側から見ると、大学を卒業しても必ずしも直ちに就職できない結果をもたらすおそれがある。また、学生が内々定または内定を得るまでに、従来よりも長い期間を要することも想定される。しかも、企業内で空白となったポストを既卒の、就業経験のある労働者と競争することになるため、何の就業経験もない新卒者の就職のリスクは従来に比して高まると見なければならないであろう。

このような結果をもたらすおそれのある改革を急ぐと、学生をはじめとする関係者に大きな戸惑いを惹起せしめるおそれなしとしない。すなわち、学生は、これまで新規学卒者の大部分が卒業とともに、希望する企業であったか否かは別にして、何らかの企業に就職してきた我が国の採用システムを当然の前提として大学に入学してきているので、長期わたり就職できない状況が生ずることにどこまで耐えられるか、危惧されるところである。また、学費を負担する親の多くは、子供が大学を卒業した後は直ちに就職して経済的に自立し、その結果、家計の負担が軽減されることを当然のことと考えてきたことを考慮すれば、親の心情にも十分な配慮がなされるべきであろう。大学も、長い間、一括採用システムを前提として学生の就職支援に努めてきたという経緯があるため、この改革に順応するにしても一定の時間を要することになろう。このように長年の雇用慣行の中で形成されてきた採用システムおよびそれに裏付けられた関係者の意識を短兵急に変容させることになると社会的軋轢が生ずることは避けられないのではなかろうか。

以上のように、新規学卒者の一括採用を見直し、通年採用に切り替えることが我が国経済の活性化に不可欠であるとしても、それを実現するにはそれ相当の条件整備と新しいシステムに馴染む時間が必要となろう。その意味では、当面、一括採用方式を堅持しつつも、補足的に通年採用方式を導入し、その枠の中で徐々に既卒者の採用を増やすことから始めるのが望ましいように思われる。　（しみず さとし）

〈付記〉上記拙稿は、最近の「日経新聞」の報道および社説等を参考にしている。

寄稿

嗚呼　高中四五会

嶋方　菊司
嶋方税務会計事務所長　45期

昭和16年入学、20年卒業と大東亜戦争と全く軌を一にし、修業年限5年で入学したのにも拘らず4年で、一期先輩と同時卒業の旧学制下では唯一の特異な学年であった。

憧れの二本白線帽は順次国防色の黒色帯を廻した戦斗帽に、学生服は黒の詰襟から矢張り国防色の折り襟服に変わり、授業は春秋の援農奉仕に、その間にも陸軍岩鼻火薬廠その他の軍需工場に1～2週間位の勤労動員が数回あり、遂に4年生からは登校することなく、沖電気・水上機関区・小島機械に動員となった。当初数回先生が工場に来て授業があったのみで、このため在学4年間の授業は通算2年半位だったのではないか、このような状況にあっても海軍予科練生、陸軍特幹生が現役将校による召募講演会や、先生の慫慂(しょうよう)もあってか応募者多く、このため1クラス消え3クラスとなってしまった。

20年3月卒業時に動員中の給料として預金通帳を渡されたが、生徒の身でありながら月給50円が支給されていたので高給で吃驚(きっきょう)した。

戦時中の特異な学校生活だった故か同級生の団結は堅く、1月2日3時集合のイチ・ニ・サンの合言葉での約60回も続いたクラス会や、67才の時からの老人修学旅行も七回に及び、更に70才頃からの年寄り好みの神社佛閣巡りの散策も100回を数えるなども、同級生としての絆の強さの表れであろう。

八十路も半ばを超え、70年余り昔の生意気盛りの同級生の面影を浮べつつ筆を擱(お)く　　(しまかた きくじ)

独学万歳

豊泉　清
産婦人科医　豊泉クリニック院長　55期

高校時代に私に強い影響を与えた英語教師がいた。厳しい指導の下で真剣に英語学習に取り組んだお陰で英語を面白いと感じるようになり、積極的に参考書を買い漁って学習に熱中した。

大学でドイツ語を2年間学んだ。教師の指導で学んだ外国語は英語とドイツ語だけである。

社会人になってからNHKの放送講座を利用して独学でフランス語、スペイン語、ロシア語、イタリア語などに親しんだ。若い頃からシャンソンやアルゼンチンタンゴやロシア民謡やイタリア歌曲が好きで、レコードに添えてある外国語の歌詞が理解できればいいなあと思ったのが独学を始めた動機である。放送講座を聴き続けていると、いつしか初歩的な内容が理解できるようになり、レコードの歌詞も読めるようになった。

高校時代には想像もできなかったが現在は一般庶民が自由に外国へ行ける時代である。私も良いご縁に恵まれて国際文化団体の研修で外国を訪れる機会が多い。独学で嚙(かじ)った初歩的な知識に過ぎないが、相手の母国語で意思の疎通や相互理解ができると、海外旅行が一段と楽しく感じられる。

NHKでは中国語や韓国語の講座も放送しており、片端から耳を傾けて大脳を刺激している。

勉強は教師の指導でするという意見が常識的と思われるが、私は独学こそ真の勉強だと信じている。外国語の独学を老化防止の特効薬と評価し、生涯の趣味として今後も取り組み続けたいと望んでいる。　　(とよいずみ きよし)

「先生」の思い出

安立　清史
九州大学大学院人間環境学研究院・教授（社会学）　75期

考えてみると私たちの人生は、学校とともに始まり、卒業した学校のことは生涯ついてまわる、そういう世界の中にあります。学校は「人間」や「社会」と濃密に出会う場だからでしょう。同級生とのつきあいは一生ものです。そして「先生」と呼べる人に出会うことができたかどうか。これがまた決定的です。私たちは「学校」や「先生」を思い出すことを通じて、人生を振り返り、何か原点になるものを確かめようとしているのかもしれません。

高高時代の「先生」。いろいろな顔が想い浮かぶのですが、中でも英語のF先生のことが蘇ってきます。F先生とは、高校卒業後も長く10年以上にわたっておつきあいが続きました。大学に職を得て結婚してからも、夏休みや春休みになると、家内とともに榛名山の高原の樹間の中にあるお宅にうかがっていました。本質的な生真面目さを持ちながら、それを含羞（がんしゅう）で隠しておられた方だと思います。急性白血病で亡くなられる直前まで真っ赤なドイツ製スポーツカーに乗っておられ、東京に戻る私たちを、高速道路の入り口で手を振って見送っておられたのが、生前の最後の姿でした。

「先生」とは何でしょうか。考えてみると不思議です。何かの教えを受けた、というような簡単なものではありません。人格的影響といって、受けたといえるのかどうか。つまり、いまだに「謎」なのです。

でも、「先生」との出会いや過ごした歳月は、年を追うごとに「懐かしい思い出」というだけではなくなってきます。かけがえのなさは、ますます深まっていくように思うのです。

（あだち きよし）

ヒューマンサイエンスコースで授業を担当して

信澤　康一
有限責任監査法人トーマツ　マネジャー　85期

去年まで3年連続で、高高のHSクラス2年の授業の一環で「ビジネスゲーム」の授業を担当しました。「ビジネスゲーム」というのは、クラスを10個程度のグループに分け、各グループは「エコペン」という架空の商品を開発・販売し、約5期間の累積利益を最大にすべく、各期の価格・数量・広告宣伝費・設備投資額を意思決定する経営シミュレーションです。

元々、高高で教えることになったきっかけは、当法人のCSR活動の一環で大学・高校・中学の経営シミュレーションを主催しているのですが、CSR推進室長だった吉田修已社員が高高OBで、高高でも行おうということになり、当法人の高高OBに講師のお声掛けを頂き、私が手を挙げた次第です。

このビジネスゲームは公認会計士の補修所の泊り込み合宿で毎年行っているもので、2日かけてじっくり行うため、資金ショートして倒産し、ゼロからスタートするグループも出てきます。高高で行ったのは3時間コースのため、意思決定の幅も限られますが、意外と5期でも差がつきます。

正直、会計のイロハを知らない高校生にはレベルが高いと思っていたため、3時間の授業で本当に経営シミュレーションが出来るのか不安でしたが、びっくりしたのは、高高HSクラスの生徒の理解力の高さと早さでした。吉田社員や私は、演習の間は各グループを回り、質問に対応したのですが、核心をついた質問が多く、関心させられました。CSR室のメンバーの間でも「高崎高校はレベルが高い」と評判で、鼻高々です。今後、HSクラスから多彩な人材が輩出されるのを期待しております。

（のぶさわ こういち）

私の仕事

美術館学芸員 天職に悔いなし

井出　洋一郎

府中市美術館館長、アーツ前橋運営評議委員(67期)

長い間ご無沙汰していた同窓会の校内幹事の方から私の職場に電話があり、会報に「私の仕事」として原稿依頼したいとおっしゃる。一瞬逡巡したが、これも私のしてきた学芸員という仕事を一般に理解してもらえるチャンスかもしれない、と思い直してお引き受けした。学芸員とは博物館の資料収集、保管、展示と研究ならびに教育を担当する専門職である。全国の博物館が6千館近くあるとしても、学芸員は最近の文科省の調べでは7千2百人余で、美術館学芸員はその2割と考えてもらえれば良い。これに比べて大学教員は16万人以上だから、動物であれば私たちは絶滅危惧種に値するかも知れない。各位はこういう珍しい仕事で生きてきた奴も同窓にいる、という文脈でお読みいただきたい。

ちなみに高々出身の美術関係者をWikipediaや名簿であたってみると、けっこう有名人が多い。画家は山口薫(24期)という大先達がいるし、世界的なグラフィック・デザイナーには佐藤晃一(62期)、同じく彫刻家では深井隆(69期)、そして美術評論家では只今売り出し中の布施英利(78期)がいる。いま安倍内閣は改造目前だが、日本の美術文化行政の元締めでもある下村博文文部科学大臣(72期)が後輩にいるのも心強い人脈である。しかし美術館に近い職種としては、読売新聞東京本社でかつて文化事業部長として「バーンズ・コレクション展」など数々の美術展をヒットさせた、同じ67期の谷矢哲夫がいる他は、あとは現役は私くらいになってしまう。

もっとも私にしても美術館に勤めることになったのは、大学院で西洋美術史を学び、博士課程もオーバードクターになった28歳の時であった。

開館時ミレーの《種をまく人》購入で話題となった山梨県立美術館の顧問をされた当時の高階秀爾東大教授と、私の指導教授澤柳大五郎との間でトレード話があって、私が甲府に送り込まれたようである。以前から指導教授には「君はアカデミカーではないから美術館が向いているよ」と進言されてもいた。しかし大学院で16世紀のルネサンス絵画を研究していた私は、山梨の展示の目玉となった19世紀フランスの大画家ミレーについても、なんと生意気にも見下していたのである。マスコミも地方美術館の人寄せの1点豪華主義として山梨を批判する向きも多かった。

恩師たちのせっかくの配慮も若造の私には真意が分からないまま、私は山梨県立美術館での学芸員生活を始めた。その私を、次第にプロとして目覚めさせて鍛えてくれたのがビギナーの観客であった。半端な智恵を付けて慢心していた私の態度を、素人の率直な眼と物言いが改めさせた。具体的に言えば、展示室で学芸員がするギャラリートークである。これがいやで逃げ回っていた私を、初代館長の千澤上智大教授がつかまえられては、老若男女ご一行の案内役をよくさせられた。ミレーはもちろん美術館が初めてという観客は、絵の前でとんでもない質問を浴びせかけるが、それに対抗して負けず嫌いの私は何にでも答えられるよう勉強が始まった。絵の値段はもちろん壁石の素材、はてまた庭園の植栽や芝の手入れ、近所のランチ情報に至る全ての事柄であって、それを、最近朝の

連続テレビドラマで全国に広まったが、甲州弁をサービスに適当に混ぜながら展示室で観客と語り合う、なんとそれが楽しくなってきたのである。となるとミレー研究にも熱が入って、フランス語原文の伝記の本邦初翻訳まで実現することになる。これまで軽く見ていたミレーの絵画にも、古代からの聖書やラテン文学の伝統を背景にした奥の深い歴史が隠されていることがわかり、パリやボストンなど海外から借用する大きなミレー展やシンポジウムも企画できるように成長してきた。まったく恩師という存在は、教え子の性格をよくご覧になっているものである。

こうして10年近く山梨県立美術館の初代「ミレー番」学芸員として働いたが、1986年に私は転機を迎えて退職する。大学教授の道が開けたことと、八王子市にあるミレーとバルビゾン派画家コレクションで有名な村内美術館の顧問として迎えられたこと、そして1991年に東京、京都、山梨3館を巡回するこれまで最大のミレー展を企画監修する大役を与えられたことによる。こうして大学と美術館と展覧会という、三つの活躍の場が今日まで立場や場所を違えても存続していることは幸せには違いない。その中でも活動の中心はいまだ美術館にある。しかし自分でその仕事が「天職」ではないかと思えるようになったのは館長になってここ5年のことである。

週3日勤務する府中市美術館は市内の東北、緑の美しい府中の森公園の一角にある。2000年10月にオープンし、日本の近代洋画を収集展示する他、さまざまにユニークな企画展と充実した教育プログラムとで市民や近隣の多摩地域住民、そして熱心な美術ファンの支持を得てきた。東京都府中市は人口が25万人だが、美術館の年間入場者は10万人を超える。その3割が府中市民で5割がそのほかの都民、2割が他県から、という構成である。建物は2階建てで延べ床面積が7800㎡だから、県立美術館クラスの立派な施設と言えよう。そこでいわば古巣に戻った気分の私は、しばしば現役学芸員の領分に立ち入って彼らを困らせている。

「館長」と「学芸員」の違いを説明すると、まず学芸員には学校教員と同じような国家資格が博物館法で定められており、四年制大学で必要単位を取得して博物館での実習を受ける。資格を取得しても博物館への就職には難しい専門試験があり、倍率も高い。しかるに館長はといえば、資格など何もない。私は学芸員上がりなので、当然学芸員資格を持っているが、全国の美術館長ではそれは圧倒的に少数派である。法規則では館長とはマネジメントとまとめ役のためにあるので、とくに学芸員としての知識経験は不問なのである。その館長になってみて、今さらだが学芸員の職域がこんなにも豊かで魅力的なものかがわかった。自分の研究を基に作品の収集や展覧会などを企画実現し、その成果が問われて責任を持つのは現場の学芸員であって館長ではない。私は府中に6人いる彼らが時々妬ましくなり、館長室からよく学芸員室に出没して雑談のきっかけを探す。展示作業の際にも何か口を出す隙がないものかとよく見て回る。つまり私も同じ学芸員であることを彼らに示したいのだが、私が若かった頃には決して理解できない心境といえよう。かつて学芸員の私は展示作業中に館長が見に来ると、とたんに険悪な顔になったようである。忠告をしぶしぶでも聞くのは休憩用のベンチの配置を直す時だけだったと思い出すので、歴代の館長にはずいぶん扱いにくい嫌みな部下であったことを反省している。

その「今でも気持ちは学芸員」館長のたまった欲求不満を一気に解消する機会がいま訪れている。この7月に山梨から始まって9月府中市美術館、そして11月宮城県美術館へと巡回する「ミレー生誕200年記念　ミレー展
～愛しきものたちへのまなざし～」である。(チラシ写真)その全体監修を依頼された私は、フランスの美術館との出品交渉に出張し、合同企画会議には皆勤し、カタログ執筆には一番乗りで期限通り送稿し、作品集荷にも立ち会い、カラー図版の出張校正まで1人でこなして久々に悦に入っている。そしてこの9月10日のオープンを迎えて3日前から展示作業が始まる。この「楽しみ」を担当学芸員とどうシェアするか、現場で邪魔にならないように若い世代といかに協働するか、あれこれ気をもみながらも「天職」と自認するだけに、いつまでも関わっていたい仕事なのである。

(いで　よういちろう)

翠巒育英会より

平素は翠巒育英会に対しご指導、ご協力をいただいており、深く感謝申し上げます。

昨年は同窓会報紙上をお借りして、翠巒育英会について紹介させていただき皆様にご理解をお願いし、さらに本育英会への思いを横尾君、佐々木君に綴ってもらいました。これにより多くの皆様から共感と励ましのお便りをいただき、本当に有難く、感激しております。

そして、不躾ではありましたが本会への寄付金について、同窓会維持会費納入時にお振り込みいただく方式でお願いしたところ、予想をはるかに超える1,484人の皆様から148万4,000円のご厚志をお寄せいただき、また、叙勲・褒賞の栄に浴された方や篤志の方からも多額な特別寄付をお寄せいただきました。本当に有難うございました。心より厚くお礼を申し上げます。

こうした皆様のご厚意により別記のとおり運営費にもやや余裕が生まれましたので、今後の寄付金の推移を注視しながら奨学資金給付事業の拡充を図りたいと思っております。皆様には今後も本育英会へのご指導、ご支援をお願い申し上げます。

平成26年11月

公益財団法人 翠巒育英会 理事長　田端　穣

礎を築いた人

「高高のPTA会長さんは弁護士ですか?」と、当時の県教委の担当職員が舌を巻いたという話が伝わっている。これは田中順さん(故人・51期・当時PTA会長・同窓会副会長)が翠巒育英会の設立に携わっていたときの、その博識とエネルギッシュな活動にびっくりしての述懐である。

一高等学校が財団法人を設立して育英事業を始めるという発想がどんな経緯で生まれたのだろうか。この財団法人の原資が、母校の選抜高校野球大会出場時寄付金残金の一部が同窓会に寄託された3,000万円で、クラブ活動振興基金として運動部の全国大会出場の際に援助していた。しかし、全国出場は稀であまり使われず、利子も高いので残高は増えていた。ところが昭和58年頃から「マル優」制度廃止による預金利子への課税の動きが強まり、このままでは本来の支出がない年でも税金だけは取られるおそれが出てきて、基金をもっと有効に活用できないかという声が強くなった。そこで同窓会は利子課税が免除される財団法人を設立し、基金の運用による奨学金給付事業を行うことで、基金を有効に活用することとした。その設立の推進役としてその任を託されたのが田中順さんだった。

財団法人設立について何の知識のない状態からのスタートであったため、その後の田中さんの奮闘ぶりは凄まじいものだった。関係書籍の渉猟、午前の診療(歯科医)が終わると学校事務室を訪れパンを食べながらの打ち合わせ、同様に県教委担当課との打ち合わせ、それが終わると午後の診療と、そのエネルギッシュな活躍ぶりには鬼気迫るものがあり、こうした育英会設立に対する迫力が県職員に冒頭の述懐をさせたのであった。この情熱とご尽力が実り昭和60年「財団法人翠巒育英会」が発足したのである。これが功を奏し、設立当初は信託銀行に預けると利率7.8%で運用することができ、正味財産3,000万円の運用益で余裕を持って奨学金をまかなえることができた。

平成25年度「公益税団法人 翠巒育英会」決算書

(単位・円)

■収入		
正味財産(基金)運用益		12,229
寄付金		2,270,471
雑収入		3,419
合計		2,286,119
■支出		
事業費	奨学金	1,800,000
	学校教育補助金	200,000
	通信運搬費	80,300
	消耗品代	970
	支払手数料	156,956
管理費	通信運搬費	15,400
	消耗品代	514
	支払手数料	1,100
	広告宣伝費	10,000
合計		2,265,240

2,286,119 − 2,265,240=20,879 (正味財産に繰入)

■正味財産 (基金)

＊当期首残高	51,083,083
＊繰入金	20,879
＊当期末残高 (現在高)	51,103,962

(注) 上記決算書は財団法人の決算書の様式とは異なりますが、皆様に分かりやすくするために、一般的な収支報告書の様式にまとめたものです。( ) 内は田端注

同窓会だより

「第113回　高中・高高同窓会新年総会・懇親会皆様をお待ちしております」

粕川　泰彦
84期代表幹事
曹洞宗長泉寺副住職 愛隣保育園長

新春恒例の「高中・高高同窓会新年総会・懇親会」は次回で第113回を迎え、私ども84期が当番として幹事を務めます。高高卒業時に、当時社会科の田端先生（54期、現・翠巒育英会理事長）に「私たち（54期）は先日同窓会新年総会の当番幹事をした。君たちにも30年後、当番をしてもらうんだ」と言われ、「母校を卒業した後、すべての同窓生が集まる機会があるのか…　30年後…　随分先のことだな」と思ったものですが、気がつくと長いと思われた30年があっという間に経っていました。

思えばこの30年、時代はめまぐるしく移り変わり、グローバル化と称して我が郷土でも世界を相手に仕事をする方々も多数現れ、同窓の方々の中にも世界を股にかけ、日々努力をなさっている方が大勢いらっしゃるとうかがいます。

高崎の街はもちろんのこと、群馬県、日本国、世界中の様相が大きく変わりました。それでも、我が母校は変わらず「そこ」にあり、今も次代を担うであろう大勢の後輩達を輩出し続けています。

その母校で共に10代後半の時期を過ごした同窓生が老若一堂に会し、私どもが当番幹事として皆様をお迎えする。準備を進めていく中で、多くの先輩後輩をお迎えするのは本当に大変なことと実感しておりますが、当番幹事はそれを補ってあまりあるほどの喜び・楽しみを味わうことが出来る、高高卒業30年後の大変貴重な機会を頂戴したとも思います。

大きな喜びをもって準備を整え、皆様と当番幹事共々に楽しめる総会・懇親会を作り上げて参りたいと存じます。多くの皆様のご来場をお待ちいたします。

同窓会ニュース

嶋方　菊司 税理士　45期

近時税理士資格の取得も厳しさを増していると云われる中、税理士会高崎支部は高高OBが現在会員の四分の一を占めております。同窓としての親睦を深め、更なる研鑽を深めようと「翠巒税理士会」を組織しております。会員は骨董品的な45回生から童顔の103回生迄の多士済済です。会長は同窓の集まりの性格上卒業回次の若い者が就任しております。

本年も去る8月7日集いを持ち在学当時のエピソードで宴も盛り上がり、同窓の絆の深さを再確認しました。そして母校の益々の発展を祈念しつつ、肩を組み応援歌・校歌の放吟で真夏の一時を閉じました。

学校行事

CSS講演会

清水　敏 65期

平成26年10月9日、「CSS」活動の一環として、本校OBで現在早稲田大学副総長の清水敏氏（65期）による講演会が行われた。

本校では、平成24年度入学生より、次世代のリーダーを育成するため、本校の特色ある教育活動として「翠巒プロジェクト」が始まった。これは、"高いレベルの文武両道"や翠巒祭・定期戦等の"主体的な学校行事""知性を磨くCSSプログラム"の三本の軸から成る。「CSS」とは、Career（進路学習）・Search（探求活動）・Science（サイエンス）の頭文字を取ったものである。主な活動として、社会人講師授業や企業研究所訪問研修、論文作成、スペシャルサイエンス（文部科学省スーパーサイエンスハイスクールを継承発展）、ヒューマンサイエンス（人文・社会科学分野の分野別講座等開講）などがある。

大学のグローバル化に伴い、大学の存在意義は日本国内評価に加え海外からの評価が重要になっている。国際舞台で活躍できる人材の育成が急務であり、目まぐるしく変化している社会だからこそ、高い志を持って何事にも積極果敢に挑むことの必要性を高高生に語られた。

第62回翠巒祭は「No Limit!」というテーマを掲げ、積み重ねてきた伝統に更なる改良を加えるため「私たちだったらなんだってできる!」という強い意志のもと、今までの経験を活かしつつ、新たな試みを多く取り入れました。結果として、来場者数、売上を史上最高のものとすることができました。

中には完璧とは言えないものもありましたが、後輩達には、こういった失敗も今後の成功の糧とし、さらなる翠巒祭の発展に繋げていただければと思います。また楽しむことを忘れず、自分達らしい翠巒祭を作り上げてもらえればこのうえない喜びです。

今回の大きな発展は実行委員の翠巒祭に対する熱意と努力、生徒全員の協力と主体的な活動、そしてなにより地域の皆様を始め、OBの皆様方の温かなご支援によって生み出されたものです。ここに感謝を申し上げるとともに、今後ともより一層のご支援をお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

第62回翠巒祭実行委員長　3年　北爪章斗

パンフレットデザイン

これまでの戦績は高高39勝、前高23勝、引き分け3、中止2です。

大敗を喫した去年の定期戦では、先輩方の悔しさを噛みしめる姿が印象的でした。雪辱を果たすべく臨んだ今回の定期戦では、ここ2年間の中で最も熾烈な戦いの末、無事勝利を収めることができました。

自分が定期戦実行委員長として過ごしてきた中で強く感じたことは、仲間の大切さです。チーフ陣とは何度も何度も会議を重ね、定期戦について語り合いました。仲良く、時として厳しく、一緒に頑張ってくれたチーフ陣には本当に感謝しています。

自分がこうして実行委員長としての責務を全うする事が出来たのは、チーフ陣をはじめとする定期戦実行委員と、全校生徒の皆さんのおかげです。辛いことも多々ありました。でも本当に、本当に、楽しかった。高崎高校定期戦実行委員長として皆さんと共に戦った経験は私の生涯の宝となりました。ありがとうございました。

来年こそは今年成し得ることができなかった「完全勝利」と「アウェーでの勝利」を達成することができるよう期待しています。

第６８回定期戦実行委員長　３年　青山慎太朗

第68回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水　泳	3	6
		駅　伝	3	6
		綱引き	3	6
		玉入れ	3	6
		ソフトボール	6	3
		長縄跳び	2	4
0	6	卓　球	3	6
6	0	陸上競技	3	6
6	0	ソフトテニス	6	3
6	0	バレーボール	4	5
6	0	バスケットボール	8	1
0	6	空手道		
6	0	柔　道		
0	6	剣　道		
0	6	弓　道		
0	6	サッカー		
6	0	ラグビー		
6	0	硬式野球		
6	0	軟式野球		
0	6	テニス		
36	48	小　計	35.5	60.5
92	高高	総　合	前高	88

第66回 マラソン大会

平成26年11月20日(木)

定期戦が終わり、次の学校行事のマラソン大会が11月20日(木)に学校周辺の方々のご理解とご協力で行われた。今年で66回という歴史ある大会は、例年より気温が低い中で行われた。コース(9.1 km)の前半は長い上り坂で白衣観音を過ぎると急激な下り坂となる。優勝者のタイムは32分24秒。全員が完走した。

第一体育館の改修工事のため、午後の表彰式は校庭で行われ、クラス表彰、個人表彰に加えて、各教科や生徒会からの特別賞の発表で盛り上がりを見せた。

コース

START 護国神社前【10時】→
国立のぞみの園→白衣観音→
洞窟観音入口→
高崎高校トラック内 GOAL

護国神社前のスタートダッシュ

銀杏並木でのラストスパート

進路状況(全日制)( )内は現役

大学＼年次	24年	25年	26年	大学＼年次	24年	25年	26年	大学＼年次	24年	25年	26年
北海道大	8(8)	8(5)	9(8)	信州大	7(6)	5(4)	4(2)	中央大	67(48)	58(53)	66(46)
東北大	20(18)	25(19)	30(25)	名古屋大	1(1)	1(1)	5(5)	明治大	86(56)	67(52)	84(64)
筑波大	9(9)	6(5)	5(4)	京都大	5(5)	4(3)	8(6)	上智大	7(5)	13(12)	20(10)
群馬大	29(24)	28(24)	27(20)	大阪大	2(1)	4(4)	2(2)	立教大	28(22)	22(13)	16(10)
埼玉大	6(3)	9(7)	6(5)					学習院大	0(0)	9(7)	8(6)
千葉大	4(1)	13(12)	9(7)	首都大東京	4(2)	1(1)	7(5)	青山学院大	16(9)	16(13)	26(21)
東京大	3(1)	5(5)	10(6)	高経大	16(15)	14(14)	16(15)	法政大	32(27)	33(27)	48(39)
東工大	4(4)	6(3)	3(2)					日本大	66(59)	45(36)	75(58)
一橋大	4(3)	3(3)	4(3)	国公立大医学部医学科	8(4)	12(11)	10(7)	東京理科大	75(57)	70(55)	102(77)
横国大	5(4)	3(3)	4(3)					芝浦工業大	74(57)	52(42)	71(58)
新潟大	13(13)	14(11)	11(8)	慶應大	29(21)	30(25)	30(11)	同志社大	8(5)	2(2)	5(3)
金沢大	15(14)	13(10)	13(13)	早稲田大	55(37)	36(30)	53(32)	立命館大	32(27)	16(11)	18(9)

母校だより　各部の活躍・活動

運動部の活動

バレーボール部　3年　樋口裕希　南関東総体出場

今年度、昨年に引き続き、2年連続でインターハイへ出場することができました。顧問の柴山先生、加瀧先生、江原先生をはじめとする多くの応援してくださる方々のおかげで出場することができ、大変感謝しています。

目標は昨年達成することができなかった「全国一勝」でしたが、やはり全国の壁は厚く、またもその壁に目標達成を阻まれてしまいました。後輩にはこの目標を是非達成して欲しいと思います。

これからも、高崎高校バレーボール部の応援を宜しくお願いします。

ラグビー部　3年　片桐貴大　関東大会連続出場

昨年度に引き続き、今年度も関東大会に出場することができました。高崎高校の紫紺のジャージを身に纏い、上位大会でプレーできたことを誇りに思っております。これも、森田先生・萩原先生をはじめ、OB、保護者、その他関わってくださったすべての方々のおかげであり、深く感謝申し上げます。

冬の全国大会の群馬県予選では農大二高に惜敗し、3位に終わってしまいましたが、3年間心身ともに鍛えた日々は、私たちの宝物です。そして、後輩たちにはぜひとも「花園」出場の夢を叶えてほしいと思います。これからも高崎高校ラグビー部の応援をよろしくお願いします。

①関東大会
②インターハイ予選
③全国高校総体
④国体
⑤県新人大会
⑥その他の大会

硬式野球部

○春季大会
2回戦　高崎１１－　２伊勢崎工
3回戦　高崎　３－　５太田
○選手権大会
2回戦　高崎１５－　５富岡
3回戦　高崎　１－　６伊勢崎商
○秋季西毛リーグ
高崎　４－　３吉井
高崎１１－　１藤岡北
高崎１５－　１鏑恋
高崎　１－　２高崎東
○秋季大会
2回戦 高崎　８－　０太田市商
3回戦 高崎　４－　８関学大附

ラグビー部

①関東大会
高崎１２－　７つくば秀英
高崎１４－４０東京高校
（Dブロック　準優勝）
⑥全国高校ラグビー大会群馬県予選　3位
決勝トーナメント
高崎５７－１０前橋育英
高崎１６－１７農大二高

サッカー部

②1回戦　高崎９－０樹徳
2回戦　高崎２－３桐生商業
⑥高等学校サッカー選手権群馬大会
2回戦　高崎１－４桐生商業

バレーボール部

①1回戦　高崎２－０越谷南（埼玉）
2回戦　高崎２－０東京学館船橋（千葉）
3回戦　高崎２－０藤沢翔陵（神奈川）
準々決勝　高崎２－１東亜学園（東京）
準決勝　高崎０－２駿台学園（東京）
（第3位）
②3回戦　高崎２－０農二
準々決勝　高崎２－１県央
準決勝　高崎２－０高工
決　勝　高崎２－０伊勢崎（優勝）
③予選グループ戦

高崎０－２大村工（長崎）
高崎０－２高知商（高知）
④本校より監督・選手８名出場
関東ブロック大会（栃木）
群馬１－２東京
群馬１－２神奈川
⑥西毛地区大会
準々決勝　高崎２－０高経附
準決勝　高崎２－０藤中央
決　勝　高崎０－２県央　（準優勝）
全日本バレーボール高等学校選手権大会
（春の高校バレー）群馬県予選会
３回戦　高崎２－０榛名
準々決勝　高崎２－０藤中央
準決勝　高崎２－０桐商
決　勝　高崎０－３伊勢崎（準優勝）

陸上競技部

①②関東高校陸上競技大会（相模原）
兼インハイ予選
多胡　遼(3年)100m　予　7位
4×100mR
竹澤　陸(1年)1走　予　7位
多胡　遼(3年)2走　予
山中公道(2年)3走　予
淡路将史(3年)4走　予
高橋昇之(3年)棒高跳　決　8位
瀧川実哉(2年)やり投　決 10位
⑤竹澤　陸(1年)100m　決　6位
武士文哉(1年)800m　決　4位
黒柳宏暢(2年)1500m　決　3位
茂原大悟(2年)5000m　決　1位
黒柳宏暢(2年)5000m　決　3位
茂原大悟(2年)3000mＳＣ　決　1位
4×100mR
竹澤　陸(1年)1走　決　1位
高橋優作(1年)2走　決
岡島大樹(2年)3走　決
山中公道(2年)4走　決
瀧川実哉(2年)やり投　2位
加藤晶充(2年)やり投　5位
⑥関東高校選抜新人陸上大会（ひたちなか市・笠松）
武士文哉(1年)800m　予　5位
茂原大悟(2年)5000m　決　棄権
黒柳宏暢(2年)5000m　決 12位
茂原大悟(2年)3000mＳＣ　決　3位
4×100mR
竹澤　陸(1年)1走　予　4位
高橋優作(1年)2走　予
岡島大樹(2年)3走　予
山中公道(2年)4走　予
瀧川実哉(2年)やり投　決　9位

⑥学校対抗（前橋）
多胡　遼(3年)100m　決　5位
竹澤　陸(1年)100m　決　6位
多胡　遼(3年)200m　決　5位
永井　諒(3年)1500m　決　7位
黒柳宏暢(2年)5000m　決　7位
原田晃伸(3年)400mH　決　7位
茂原大悟(2年)3000mＳＣ　決　2位
黒岩勇作(3年)3000mＳＣ　決　8位
植田智之(3年)5000mW　決　3位
高橋大樹(3年)5000mW　決　8位
4×100mR
竹澤　陸(1年)1走　決　3位
多胡　遼(3年)2走　決
高橋優作(1年)3走　決
岡島大樹(2年)4走　決
高橋昇之(3年)棒高跳　決　1位
大曲和輝(2年)棒高跳　決　6位
真下稜平(3年)走幅跳　決　4位
高橋昇之(3年)走幅跳　決　6位
真下稜平(3年)三段跳　決　5位
波多野光一(3年)走幅跳　決　7位
瀧川実哉(2年)円盤投　決　6位
瀧川実哉(2年)ハンマー投　決　8位
瀧川実哉(2年)やり投　決　2位
加藤晶充(2年)やり投　決　4位
・男子総合成績（一部校12校中）79点第3位
⑥県高校駅伝
（伊勢崎市陸上競技場周回コース）
第６位　2時間15分21秒
※15年連続関東高校駅伝出場権を獲得
茂原大悟(3年)
金子哲佳(2年)
黒岩勇作(1年)
永井　諒(3年)
高橋諒平(3年)
村上雄哉(2年)
黒柳宏暢(3年)

水泳部

①100m平泳ぎ　是永琢斗　11位
以上の記録で、是永琢斗が100m平泳ぎにおいて全国標準記録を上回り、全国大会に出場

③100m平泳ぎ　是永琢斗　45位
④100m平泳ぎ　是永琢斗　14位
⑤ 50m平泳ぎ　宮田賢優　2位
100m平泳ぎ　宮田賢優　3位
50m背泳ぎ　池田雄一　5位
100mバタフライ　佐藤　優　3位
200mリレー（佐藤・土橋・池田・宮田）2位
200mメドレーリレー
（池田・宮田・佐藤・土橋）　2位
⑥関東高校県予選　競泳男子総合 第7位
100m平泳ぎ　齋藤　匠　4位
200m平泳ぎ　齋藤　匠　2位
100m平泳ぎ　是永琢斗　2位
200m平泳ぎ　是永琢斗　9位
400mリレー（佐藤・是永・宮崎・齋藤）5位
800mリレー（齋藤・是永・佐藤・宮崎）6位
400mメドレーリレー
（佐藤・是永・宮崎・齋藤）　7位
以上の種目で入賞し、関東高校標準記録を突破したので関東大会に出場（是永琢斗200m平泳ぎ9位を除く）
⑥県高校総体 男子総合　第7位　（36点）
100m平泳ぎ　齋藤　匠　4位
200m平泳ぎ　齋藤　匠　2位
100m平泳ぎ　是永琢斗　2位
200m平泳ぎ　是永琢斗　8位
400mリレー（佐藤・是永・宮崎・齋藤）5位
800mリレー（齋藤・佐藤・是永・宮崎）6位
400mメドレーリレー
（佐藤・是永・宮崎・齋藤）　8位

ソフトテニス部

①関東大会　個人戦　清水・津久井組、
串田・森田組、須田・品川組出場
②団体戦
２回戦　高崎３－０高工
３回戦　高崎２－０安中総合
４回戦　高崎０－２前商　ベスト８
個人戦ベスト１６
串田・森田組、須田・森田組
⑤県新人大会個人戦　ベスト１６
須田・森田組、小板橋・金子組、中村・宮澤組
⑤団体　２回戦　高崎３－０前橋
３回戦　高崎２－１高経附
４回戦　高崎２－１前商
（11月現在ベスト４）
⑥夏季ソフトテニス大会
シングルス　２位　須田将斗
ベスト８　森田　学
ダブルスベスト８　中村・宮澤組
団体戦　３位
２回戦　高崎３－０健大高崎
３回戦　高崎２－０太工
４回戦　高崎２－１渋川
準決勝　高崎１－２高商

卓球部

②１回戦　高崎３－０大間々
２回戦　高崎１－３桐生
⑤１回戦　高崎３－０県央
２回戦　高崎３－０渋川工業
３回戦　高崎０－３前橋商業
（ベスト１６）
⑥群馬県高校強化卓球大会
ベスト64　２年　中野秀宜
全日本卓球選手権大会ジュニアの部

県予選会　ベスト64　1年　中野舜介

剣道部

②団体戦　2回戦　高崎4－0前工
　　3回戦　高崎0－4農二
　　（ベスト16）
　個人戦　山崎拓朗　ベスト8
⑥学校対抗団体戦
　　2回戦　高崎3－0渋工
　　3回戦　高崎0－1前高
　　（ベスト16）

柔道部

②団体戦　2回戦　高崎5－0農二
　　準々決勝　高崎1－4前商
　　（ベスト8）
　個人戦　柴田佳宣　66kg級　3位
　　坂本賢哉　73kg級　ベスト8
　　今泉達郎　81kg級　ベスト8
④個人戦　櫻井捷夫　60kg級　ベスト8
　　柴田佳宣　73kg級　3位
　　黒崎智史　73kg級　ベスト8
　　関谷太志　73kg級　ベスト8
⑥群馬県ジュニア柔道選手権大会
　　柴田佳宣　66kg級　準優勝
⑥少年柔道強化選手選考会
　　柴田佳宣　73kg級　優勝
　　関谷太志　73kg級　4位
　　今泉達郎　90kg級　3位
　　原　裕昭　90kg級　4位
⑥第23回一橋大学杯柔道大会
　予選　高崎5－0県立千葉
　　高崎5－0海城
　　高崎5－0桐朋
　準決勝　高崎4－1川越
　決勝　高崎5－0県立浦和
　　優勝（2連覇）

《相撲競技》
①団体戦予選リーグ
　1回戦　高崎4－1山手学院（神奈川）
　2回戦　高崎4－1鹿沼南（栃木）
　3回戦　高崎3－2安房拓心（千葉）
　決勝トーナメント
　1回戦　高崎1－4谷村工（山梨）
　　（ベスト16）
①個人戦7名参加

弓道部

②③予選敗退

空手道部

②団体形　高崎1－4前東
　団体組手　高崎1－4前西
　個人形・組手　1・2回戦敗退
⑤団体組手　ベスト8
　個人形　下田晃大　3回戦敗退
　個人組手　松原圭太郎　3回戦敗退
⑥1・2年生大会
　個人形　1・2回戦敗退
　個人組手　清水郷主　3回戦敗退
　　他3名　1回戦敗退

軟式野球部

②全国選手権予選
　1回戦　高崎5－0農二
　2回戦　高崎2－3×前商（延長11回）
⑤1回戦　高崎2－0前南
　2回戦　高崎0－1前橋

テニス部

②団体（ベスト16）
　シングルス　古島　聖（ベスト32）
⑤シングルス　岸　雅也（ベスト32）

バドミントン部

②（ベスト16）
④予選2回戦敗退
⑤2回戦敗退
⑥高校生バドミントン大会
　柴崎雅大（2年）優勝

卓球部の大会

バスケットボール部

②インターハイ予選
　2回戦　高崎　97－32西邑楽
　3回戦　高崎113－54尾瀬
　4回戦　高崎　88－76太東
　準々決勝　高崎　68－49太田
　準決勝　高崎　49－74育英
　　（3位）
④国体
　2回戦　群馬県96－　90長崎県
　3回戦　群馬県84－104広島県
　　（1名出場、結果：ベスト16）
⑥全国高等学校バスケットボール
　選抜優勝大会県予選会
　準々決勝　高崎　66－　55太田
　準決勝　高崎　65－125桐一
　　（3位）
　西毛地区高等学校
　新人バスケットボール大会
　2回戦　高崎108－66藤中央
　3回戦　高崎　74－55高北
　準々決勝　高崎　70－66高商
　決　勝　高崎　74－96新島
　　（2位）

山岳部

①第58回関東高等学校登山大会
　（東京都・奥多摩山系）出場

バスケット部の大会

柔道部の大会

学芸部の活動

囲碁部　部長　1年　鈴木祐眞

私たち囲碁部は総勢６名で主に放課後、部室にて精力的に活動しています。

高高の囲碁部の伝統と実力を守るべく、お互いに切磋琢磨しながら研鑽を積んでいます。

先日の関東地区高等学校囲碁選手権大会群馬県予選会では団体戦２位、個人戦１位・３位の成績を収め、１月に埼玉で行われる関東大会への出場が決まりました。

今年度は部員が少ないですが、来年度以降積極的に部員を募っていこうと考えています。

第62回翠樹祭での対局の様子

新聞部　部長　2年　佐藤俊和

私たちは年間十数回、学校新聞を発行しています。10月の県高校新聞コンクールでは、４年連続となる知事賞を受賞できました。今後は、先輩方から教わったことに加え、新たに斬新な視点からの記事を考えたり、紙面のレイアウトを工夫したりして私たちらしい個性も出していきたいと思っています。

活動の魅力は、仲間たちで協力し、企画を出し合い、話し合い、一つの新聞を完成させる過程にあります。これからも部員一丸となって読者のみなさんに「おもしろい」、「高高がますます好きになった」と思ってもらえるような新聞を作っていきます。ご期待ください。

全国高校総合文化祭茨城大会での部員

● 物 理 部 ●

○ロボカップジュニアジャパン
群馬ブロック2014 参加
○物理チャレンジ2014
第1チャレンジ9名参加（全国で1762名）
第2チャレンジへ進出　3年　金井　凌
（全国で選抜された100名）

● 文 藝 部 ●

○平成26年度群馬県高校生文学賞
文芸部誌部門　優良賞

● 美 術 部 ●

○第38回群馬県高校芸術祭美術工芸部門展
4作品出品

● 吹 奏 楽 部 ●

○11月／西部地区アンサンブルコンテスト
打楽器三重奏 金賞
サクソフォン四重奏 銀賞
クラリネット四重奏 銀賞
○12月／県アンサンブルコンテスト
打楽器三重奏 金賞
○１月／西関東アンサンブルコンテスト
打楽器三重奏 銀賞
○３月／第55回定期演奏会
○５月／西部地区ソロコンテスト
浅見　壮(テューバ)銀賞
○８月／県吹奏楽コンクール
高校A組 銅賞

● マンドリン部 ●

○７月／高崎高校マンドリン部
第47回定期演奏会
○９月／第10回群馬学生ギター・マンドリン
フェスティバル出場
○12月／第17回クリスマスコンサート
○2月／第45回群馬県高等学校
ギター・マンドリンコンクール

● 合 唱 部 ●

《２５年度》
○1月／第７回群馬県声楽アンサンブルコンテスト
銀賞

《２６年度》
○５月／高崎高校合唱部定期演奏会
○７月／平成26年度群馬県高等学校芸術祭
音楽部門団体演奏会出演
○７月／平成26年度群馬県合唱コンクール
銅賞
○７月／第38回全国高等学校総合文化祭
合唱部門（群馬県合同合唱団として参加）
○11月／第20回群馬県高等学校総合文化祭
総合開会式アトラクションに参加
○11月／第20回群馬県高等学校総合文化祭
合唱・器楽管弦楽２専門部大会に参加
○11月／全日本音楽教育研究会
高等学校部会群馬大会研究演奏に参加
○12月／第17回クリスマスコンサート
○１月／第8回群馬県声楽アンサンブルコンテスト

● 和 太 鼓 部 ●

○４月／第7回たかさき春まつり
（観音山慈眼院）
○４月／第26回たかさきスプリングフェス
ティバル（群馬音楽センター前）
○７月／関東地区高等学校PTA連合会大会
「群馬大会」（ALSOKぐんまアリーナ）

○7月／第8回群馬県高校生郷土芸能発表会
（甘楽町文化会館）
○7月／八千代町二丁目町内会納涼祭
（群馬音楽センター前）
○8月／第40回高崎まつり・伝統文化和太鼓部門
群馬音楽センター前
○8月／第5回関東地区高等学校和太鼓選手権
（海老名市文化会館）
○8月／高崎市城南小学校地区納涼祭
○10月／2014南瀛(なんえい)國際民俗藝術節
(Nan Ying International Folklore Festival)
（台湾台南市）
○11月／第28回高崎ふれあいの広場
〈高崎市社会福祉協議会〉（もてなし広場）
○11月／錦野祭（群馬県立女子大学）
○11月／第28回高崎市農業まつり
（もてなし広場）
○11月／第20回県高校総文祭・郷土芸能専門部
大会【最優秀賞受賞】（高崎市文化会館）
○2月予定／群馬県骨髄バンク推進連絡協議会
シンポジウム（ラピ高崎4階ラピゲート）
○4月予定／第8回定期演奏会

● 演劇部 ●

○5月／第16回安中西毛地区演劇祭
茂木啓佑作　『劇中劇中劇中劇』
（安中市文化センター）

● JRC部 ●

○高崎地区トレーニング・センター及び
観音山清掃参加
○県総文青少年赤十字専門部交流会参加

● 囲碁部 ●

○4月／第38回全国高校囲碁選手権大会
群馬県大会団体戦準優勝
（笹口昂紀、舟山幸佑、鈴木祐眞）
○5月／第38回全国高校囲碁選手権大会
群馬県大会個人戦優勝
（笹口昂紀）
○5月／第1回群馬県高文連囲碁専門部講習会
○7月／第2回群馬県高文連囲碁専門部講習会
○7月／群馬県高等学校文化連盟
囲碁専門部合同練習会
○7月／第38回文部科学大臣杯
全国高校囲碁選手権大会
個人戦予選リーグ敗退（笹口昂紀）
○11月／第30回関東地区高等学校
囲碁選手権大会群馬県予選会
○12月／群馬県高等学校文化連盟
囲碁専門部合同練習会
○1月／群馬県高等学校文化連盟
囲碁専門部合同練習会

● 将棋部 ●

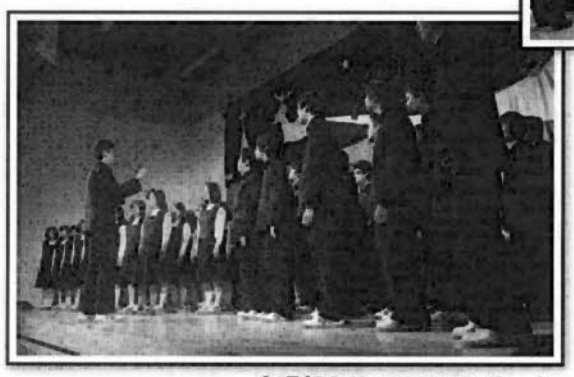
○5月／第41回群馬県高等学校将棋選手権大会
○6月／第1回将棋棋力認定大会
○9月／第25回関東地区高等学校文化連盟
将棋大会群馬県予選
○11月／第20回群馬県高等学校将棋新人大会
○2月／第2回将棋棋力認定大会
＊11月以降は予定

● 鉄道研究部 ●

○4～5月／第23回八高線写真展示列車参加
○8月／鉄道模型コンテスト2014
第6回全国高等学校鉄道模型コンテスト
モジュール部門ベストオブクリエイティビティ賞
○10月／中小私鉄フェア2014（上信電鉄）参加
○10月／第17回上州どっと楽市参加
○11月／第20回県高等学校総合文化祭参加

● 新聞部 ●

○第18回全国高校新聞年間紙面審査賞
優良賞
○第28回群馬県高校新聞コンクール知事賞
（4年連続）
○群馬県高校総合文化祭特報新聞「上州若人」
取材参加
○「高崎高校新聞」・「高崎高校新聞
翠巒MiniPress」発行
○定期戦速報「高高前高合同新聞」発行
（県立前橋高校新聞委員会と合同製作）
○第38回全国高等学校総合文化祭
茨城大会参加
○全国高総文祭特報新聞発行


合唱部クリスマスコンサート

● 放送メディア部 ●

○第61回NHK杯全国放送コンテスト
創作テレビドラマ部門　優秀賞

● 写真部 ●

○4月／春の合同撮影会参加
○11月／第31回群馬県高校写真展出品
2年　西峯隆悟
『わたし、都会派カモメ？』（入選）

● 弁論部 ●

○第38回全国高等学校総合文化祭
弁論部門出場　3年　田崎　陸（42位）

● 地学部 ●

○8月／ペルセウス座流星群を観測
（於：高崎キャンプパークジョイナス）
○11月／県理科研究発表会に4テーマの
研究発表（予定）
○11月／しし座、12月にふたご座流星群の
観測（予定）

● 化学部 ●

○本年度は「科学の甲子園」に2名参加します。その他は発表会等には参加しませんが、週に2日のペースで実験や研究を進めています。

吹奏楽部定期演奏会

同窓会本部 INFORMATION

■同窓会維持会費納入状況のご報告

同窓会員の皆様方におかれましては、日頃より本会活動に対しひとかたならぬ御指導・御協力をいただき心より御礼申し上げます。

さて、今年度より維持会費納入を従来の郵便局に加えて、コンビニ納付も可能といたしましたところ、大変多くの同窓生から御協力をいただきました。前年同期の納入状況は約1,800名／610万円でしたが、今年度においては約3,000名／810万円となり、納入率が8%から14%へと大きく伸長いたしました。また、翠巒育英会の寄付金もコンビニ納付分が約150万円と新たな財源確保が出来たことにより、在校生に対する奨学金事業等の一層の充実が可能となりました。両会併せて約1,040万円に上る皆様方の御厚志に対し、改めて深く感謝を申し上げます。今年度の母校支援は、テニスコート改修費168万円、バレーボール部インターハイ出場激励金50万円等々いくつかの事業を実施いたしました。

これからも22,000名余の全同窓生の皆様に、HPの充実や同窓会報・翠巒体育会報をお届けすることにより活動状況を詳しく御報告するとともに、維持会費の有効な運用を図って参りたいと存じます。どうぞ引き続き本会並びに翠巒育英会活動への御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会本部幹事長63期立見友孝

第113回高中高高同窓会新年総会のご案内

同窓会会員の皆様におかれましては愈々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

新春恒例の同窓会総会・懇親会は84期が当番として幹事を務めます。諸先輩方・後輩諸氏多くの同窓の皆様方をお迎えし、母校在学当時を思い起こして総会では本会及び母校の状況をご確認いただき、懇親会では共に楽しいひとときをお過ごしいただくべく、準備を進めております。

同級生・先輩後輩皆々様お誘いの上、一人でも多くの同窓の皆様がお運び下さいますよう、当番幹事一同心よりお待ち申し上げます。

日時 平成27年1月24日(土)午後3時より　会場 高崎ビューホテル(高崎市柳川町70　電話:027-322-1360)
会費 お一人様 5,000円(当番幹事84期代表　粕川泰彦)

高崎高校同窓会ホームページについて　http://takataka-ob.com/

今年（2014年）1月にリニューアルしました同窓会ホームページが益々充実してきました。

同窓会 TOP ページ

デジタル書籍が多数収録

生徒会誌「群馬」(75冊)	明治35(1902)年創刊
同窓会報(41冊)	昭和48(1973)年から
東京同窓会報「翠巒」(54冊)	昭和30(1955)年創刊
創立80周年小史	昭和53(1978)年発行
90周年小史	昭和62(1987)年発行
目で見る高中・高高100年の歩み	平成9(1997)年発行
目で見る高中・高高110年の歩み	平成19(2007)年発行
翠巒体育会報(33冊)	昭和50(1975)年創刊
高崎高校應援部60周年誌	平成25(2013)年発刊
鎌倉江ノ島修学旅行日記	明治33(1900)年

東京同窓会ホームページもオープン

年間 10,000 円で御社の広告が掲載できます

高崎高校同窓会は同窓会運営財源の確保と同窓生相互のコミュニケーション等を図ることを目的に、同窓生が在籍・経営する企業・団体を対象に協賛会員（協賛会員一覧と紹介ページ）を募集しております。

詳細は、ホームページをご覧下さい

お問い合わせ先　電話：(027)320-6024
E-mail：koukoku@takataka-ob.com

第21回高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

■ 開 催 日　2014年5月11日(日)
■ 開催場所　サンコー72カントリークラブ
■ 参加人数　231名
■ 当番幹事期　77期

●団体戦(各期上位4名のトータルスコア)

《グロスの部》

順位	期	GROSS
優勝	75期	331.0
準優勝	81期	334.0
3位	79期	335.0

《ネットの部》

順位	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	81期	334.0	48.0	286.0
準優勝	79期	335.0	48.0	287.0
3位	75期	340.0	52.8	287.2

●個人戦　《グロスの部優勝》

順位	氏名	期	GROSS
赤城・榛名	宮本 泰明	82期	76.0
榛名・妙義	渡辺 俊裕	81期	75.0
妙義・赤城	渡辺 賢一	73期	78.0

《ネットの部》

順位	氏名	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	湯浅 一男	83期	84.0	15.6	68.4
準優勝	渡辺 俊裕	81期	75.0	6.0	69.0
3位	遠山　昇	79期	80.0	9.6	70.4

好天に恵まれ大変素晴らしい大会になりました。皆様のご協力により無事大会運営ができました事に心より感謝申し上げます。有難うございました。　77期代表幹事　松本　基志

◆◆◆◆◆◆◆◆◆人事異動◆◆◆◆◆◆◆◆◆

(平成26年度)

〈退任者・転出者〉

校長　羽鳥　進一　退職
国語　渡辺　正一　退職
数学　内山　一之　退職(再任用)
養護　新井　初代　退職
司書　今井　恵子　退職
公社長　吉田　晴幸　退職
社会　間々田　功　高女
数学　齊藤　利男　桐高
体育　笠原　恵太　前商
事務　高橋香代子　企業局管理総合事務所
事務　天田　香織　前橋養　本校

〈新任者〉

校長　佐藤　功　太高
国語　栗原　俊夫　太女
理科　吉野　信幸　沼高
数学　一倉　行雄　太東
体育　吉田　卓弥　高北
養護　黒田　美緒　高北
事務　上原　頼子　勢多農
事務　宮本　香織　富東
司書　角田　奈々　榛名
公社(嘱)　大久保健一　(新採用)

通信制

〈退任者・転出者〉

国語(嘱)　折原　靖典　退職

〈新任者〉

国語　神保　昇一　高女

平成26年度　同窓会報編集会議

平成26年10月1日(水)に同窓会の活動の一つとして毎年11月末頃に発行している「同窓会報」の、編集委員会が開かれた。前年度47号を踏まえ、表紙写真、執筆原稿の状況、学校関連の記事内容、ページ割等などについて、より読みやすくなるよう活発な議論が行われた。

第48号の内容を検討する編集会議

平成二十六年　褒章・叙勲受章者（敬称略）

〈春の叙勲〉

旭日小綬章　中沢　弘（49期）
瑞宝中綬章　石井　武士（52期）
瑞宝重光章　髙木　賢（61期）
旭日双光章　江原　洋一（55期）
旭日双光章　加納紀一郎（60期）
旭日小綬章　内田　欣治（61期）

〈秋の叙勲〉

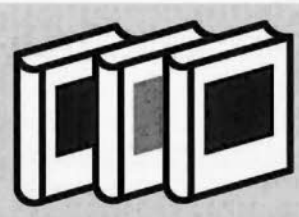
旭日小綬章　森田　秀策（49期）
瑞宝中綬章　新井　隆一（46期）
瑞宝小綬章　佐藤　和夫（51期）
瑞宝双光章　青木　健二（57期）
瑞宝双光章　中島　悦郎（53期）
瑞宝単光章　茂木　秀夫（62期）
瑞宝小綬章　小林　克茂（元校長）

〈大臣表彰〉

厚生大臣表彰　國峯善次郎（50期）
総務大臣表彰　秋山　賢治（74期）

翠巒文庫 BOOK

～すいらんぶんこ～



◆翠巒文庫について◆
翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈平成25年10月1日～平成26年9月30日〉

●著書／作者		●著書／作者	
●黄金の月　門倉まさる歌集	門倉まさる（56期）	●豆腐の白い闇	伊藤　信一（78期）
●短歌の風景　門倉まさる随筆集	門倉まさる（56期）	●生きる理由 最先端科学が明かす君の命の奇跡	若林　智（60期）
●私の植物探訪	吉羽　興一（50期）	●鬼狩りの梓馬	武内　涼（95期）
●川の流れのように　俳句随想	金井　芳之（59期）	●陸軍前橋（堤ケ丘）飛行場と戦時下に生きた青少年の体験記	鈴木　越夫（62期）
●妖草師　徳間文庫	武内　涼（95期）	●傘寿の誌上クラス会	高崎高校52期
●憲法と教育法の研究 主権者教育権の提唱	永井　憲一（49期）	●はだしっ子	吉川　廣和（60期）
●伊藤信一詩集　ヒキ肉料理のある午後	伊藤　信一（78期）		
●「伝える力」を育てる 書くことの国語科授業アイディア	村田　伸宏（78期）群馬・国語教育を語る会		

翠巒文庫に寄せて

「はだしっ子」の著者で、吉川廣和氏（DOWAホールディングス相談役）（60期）の出版パーティーが、平成26年9月17日、高崎駅メトロポリタンにおいて開催された。

大沢知事、富岡市長、本校60期生をはじめ多くの方々で会場は熱気に満ちていた。「戦争が世の中を悲惨なものにしたが、あの時代を乗り越えたから今がある。しかし当時の生活実感を伝え得る読物がない。」と吉川氏は思いを語る。小中学生でも読めるように平易な文体で書かれており、全ての世代で心温まる交流ができる内容である。

高高同窓会　予算決算報告

平成25年度　通常会計決算

（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

収入の部

費目	予算額	決算額	増△減	備考
前年度からの繰越金	2,166,215	2,166,215	0	前年度から繰越金
入会金	3,168,000	3,259,900	91,900	全日制321名(@9900) 通信制41名(@2000)
維持会費	6,000,000	6,195,760	195,760	1814名
利息	985	1,029	44	
雑収入	614,800	115,777	△499,023	校歌CD・広告掲載料 (翠陵育英会より)ほか
合計	11,950,000	11,738,681	△211,319	

支出の部

費目	予算額	決算額	残額	備考
会議費	1,000,000	767,340	232,660	新年総会準備ほか
祝賀費	850,000	703,287	146,713	叙勲記念品・卒業記念品ほか
餞別費	250,000	176,000	74,000	24年度末離退任職員餞別
慶弔費	100,000	9,450	90,550	
通信印刷費	420,000	416,402	3,598	維持会費督促状・納入礼状・ 翠陵会館電話代ほか
旅費	100,000	100,000	0	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	1,550,000	1,512,000	38,000	
同窓会報費	1,400,000	2,147,013	△747,013	
事務費	2,500,000	2,095,608	404,392	事務職員人件費・事務用品・ 資料整理費ほか
同窓会長賞費	100,000	107,734	△7,734	賞状・記念品ほか
補助費	2,100,000	3,197,856	△1,097,856	翠嶺体育会・生徒活動補助
環境整備費	230,000	220,500	9,500	指月庵およびバラ園の維持管理費
雑費	300,000	272,405	27,595	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	1,000,000	0	1,000,000	
予備費	50,000	0	50,000	
合計	11,950,000	11,725,595	224,405	

収入総額(円)	−	支出総額(円)	＝	差引繰越残額(円)
11,738,681		11,725,595		13,086

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	15,259,284円
	平成25年度通常会計より	0円
	利息	2,849円
	合計	15,262,133円
支出の部		0円
	当年度差引残額	15,262,133円

平成26年度　通常会計予算

（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

収入の部

費目	今年度予算	前年度予算	増△減	備考
前年度からの繰越金	13,086	2,166,215	△2,153,129	前年度から繰越金
入会金	3,168,000	3,168,000	0	全日制入学生320名(@9900)
維持会費	7,000,000	6,000,000	1,000,000	
利息	914	985	△71	
雑収入	50,000	614,800	△564,800	校歌CD・甲子園記念誌・ 名簿売上ほか
合計	10,232,000	11,950,000	△1,718,000	

支出の部

費目	今年度予算	前年度予算	増△減	備考
会議費	1,000,000	1,000,000	0	新年総会準備ほか
祝賀費	850,000	850,000	0	叙勲記念品・卒業記念品ほか
餞別費	250,000	250,000	0	25年度末離退任職員餞別
慶弔費	100,000	100,000	0	
通信印刷費	420,000	420,000	0	維持会費督促状・納入礼状・ 翠陵会館電話代ほか
旅費	100,000	100,000	0	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	1,550,000	1,550,000	0	
同窓会報費	2,150,000	1,400,000	750,000	
事務費	1,500,000	2,500,000	△1,000,000	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	100,000	0	賞状・記念品ほか
補助費	1,600,000	2,100,000	△500,000	翠嶺体育会・生徒活動補助
環境整備費	220,500	230,000	△9,500	指月庵およびバラ園の維持管理費
雑費	350,000	300,000	50,000	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	1,000,000	△1,000,000	
予備費	41,500	50,000	△8,500	
合計	10,232,000	11,950,000	△1,718,000	

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	15,262,133円
	平成26年度通常会計より	0円
	利息	2,867円
	合計	15,265,000円
支出の部	資料整理費	1,000,000円
	Webページ作成費	320,000円
	テニスコート整備費	1,680,000円
	合計	3,000,000円
	差引残高繰越金	12,265,000円

平成27年度維持会費納入のお願い

同封の振込取扱票により、郵便局又はコンビニエンスストアにて納入いただきますようお願いいたします。なお、ご住所、金額等を変更される場合は郵便局での扱いになります。（郵便局での納入は、できればATMのご利用をお願いいたします。）

群馬県立高崎高等学校
同窓会報

発行人：佐藤　和徳

編集委員：田端　穣（54期）　吉永哲郎（54期）　大木紀元（58期）
若山　享（58期）　熊野卓司（66期）　立見友孝（63期）
新井重雄（78期）　關根秀仁（82期）

編集後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第48号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいまして、まことにありがとうございました。（編集委員）

群馬県立高崎高等学校　同窓会事務局
〒370-0861　群馬県高崎市八千代町2-4-1　TEL.027-320-6024